

言語文化学分野 英米言語文化学領域 履修ガイド

造的に理解していきます。

英語を「使える」だけでなく

「理解する」それが出発点

本領域では、高度な英語運用能力（英検 1 級・TOEIC900 相当）を目標としながら、英語という言語を理論的に分析・理解する力を養い、英語圏文化への理解を深めます。英語を単に使うだけではなく、その構造・仕組み・意味解釈、文化背景を深く理解する。それが私たちの教育の核です。

4 年間で身につくこと

- 英語を専門として学びながら高度な英語力を目指します
- 英語で専門論文を読みこなす力
- 言語を論理的に分析する思考力
- 英語で卒業論文を書く経験
- 英語科教員免許取得の可能性
- 海外大学院や国際的な研究への道

資格や点数はゴールではありません。目標は英語で情報を捉え、英語で考え、英語で発信できる人になることです。

英語は話せるようになるのか？

もちろんなります。ただし、受け身では伸びません。英語で学び、英語で考え、英語で発信する。その毎日の小さな積み重ねが、確実に力を変えていきます。本気で取り組めば、確実に変わります。

二つの専門分野

英語の仕組みを研究する「英語学」と、英語圏の文学・文化を扱う「英米文学・文化」の二つの分野を学びます。

■ **英語学**（理論言語学）英語の文法はなぜその形をとるのか。日本語との違いはどこから生まれるのか。英語と日本語の違いを知るだけではなく、なぜ違うのかを問います。それは科学的な分析を通して言語の本質を探ることです。直感ではなく、論理で言語を説明する力を養います。これは本領域の大きな強みです。



■ **英米文学・文化** 英米文学というとシェイクスピアを読む、みたいな印象がありますよね。それもできますが、本領域では小説だけでなく、映画・演劇・ゲーム・サブカルチャーまで。文化・歴史・政治・哲学の視点から英語圏世界を読み解きます。文学を「感想」で終わらせず、社会や思想との関係の中で構

教員について

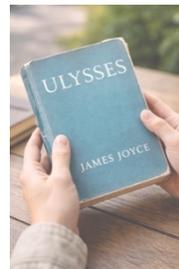
本領域では、海外大学で博士号（Ph.D.）を取得した教員による、欧米型の研究・教育環境のもとで学ぶことができます。三名の教員は全員が国際学術誌での研究実績を持っています。詳細は QR コードから。欧米型の指導體制は、本領域の大きな強みです。文学部にいながら国際的な教育研究環境に触れ、学ぶことができます。まるで海外の大学の授業を受けている感覚です。



田中秀和 英語学・理論言語学 生成文法の理論を用いて日本語と英語を分析し、その性質や共通性を研究しています。カナダ Univ. of British Columbia、米国 Univ. of Minnesota、英国 Univ. of York にて、約 20 年にわたり教育・研究に従事。カナダ McGill University 博士。

Brian Thomas Fox アイルランド・イギリス文学

James Joyce を中心に、20 世紀初頭の歴史的背景の中で文学を研究。Journal of Irish Studies 編集委員長。英国 London University 博士。



Robert Anthony Yeates アメリカ文学 SF 作品とビデオゲーム・映画・雑誌・ラジオ・漫画などのメディアとの関係を研究。終末期についての研究多数。英国 Exeter University 博士。



授業と履修モデル

基礎となる概説科目を 3・4 学期に配置し、一年生後半から本格的な専門授業に取り組めるよう設計されています。英語圏の大学と同じ積み上げ式の授業で、講義で培った基礎力をもとに、より高度な内容を実践演習、課題演習で学んでいきます。履修の基本的な流れは **講義 (introduction) → 実践演習 (intermediate) → 課題演習 (advanced)** です。そうすることにより四年生までに世界水準の研究に触れ、最先端の研究論文を読むことができるようになります。英語学分野では、講義と interactive 授業を同時履修してください。関連する英語科目も多数開講されています。積極的な履修を強く勧めます。

学年	1年	2年	3年	4年			
学期	3&4	1&2	3&4	1&2	3&4	1&2	3&4
科目		概説	概説				
		講義+(interactive)					
			実践演習	実践演習	実践演習	実践演習	実践演習
			課題演習	課題演習	課題演習	課題演習	

英語教職免許について

英語教職免許を取得するには本領域で出されている授業だけではなく、教養科目、教育学部の科目など法規に則って履修する必要があります。英語教員は生涯にわたって学び続ける専門職です。英語を専門に学んだものこそが、真に説得力のある英語教員になれる。なぜなら英語教員には高度な英語力だけでなく、英語の仕組みや英語圏文化に関する深い理解が求められるからです。大学時代から専門として英語を学ぶことが、その第一歩になります。岡山大学文学部で英語を学ばないのはもったいないです。

留学について

本領域から英語圏大学への留学例は沢山あります。TOEFL や IELTS 対策も、仲間と共に取り組みます。挑戦する学生を、私たちは全力で支援します。

- アメリカ (SUNY Stony Brook, California State など)
- カナダ (Carlton University など)
- イギリス (York St. John's など)



異なる世界に住み、母語ではない言葉で授業を受け生活する、英語の経験は世界を10倍に広げてくれます。



こんな人に向けています

- 4年間で確かな成長を実感したい
- 英語を本気で身につけたい
- 世界で活躍したい
- 英語の研究に興味がある
- 論理的に物事を深く考えたい
- 学部生の時からアカデミアの世界を体験し大学教員としての道も視野にある

文学部で得られる生涯の武器で最大のものは「英語力」です。

大学院進学の可能性

海外大学出身教員が教える本領域で学ぶことは、そのまま世界レベルでの研究に繋がることができます。教員は全員が海外の大学院を出ていますし、Q1 ジャーナル（世界的に影響が強い学術雑誌）での論文発表経験も豊富です。ここで教育を受け、修士の学位をとること、博士課程まで進み研究人生を歩むこと、大学院の後半からは世界に出て世界という土俵で学問の道を極めていくこと、可能性は広がります。実際に教員の一人(田中)は日

本に生まれ育ちましたが、大学院修士取得の後、海外の大学で博士号を取った経歴があります。積極的に学ばば道は開かれます。

卒業後の進路例

卒業生は英語力と論理的思考力を武器にしてさまざまな分野で活躍しています。英語力は就職活動でのフィルターを通過する強力な武器になり、論理的思考力は多くの企業が求める能力です。英語教員は勿論、公務員、NHK、金融（銀行・保険）、外資系コンサル・会計、外資観光業、メーカー、国内・外資航空会社。一部の卒業生は大学教員として活躍しています。英語力と専門性は、**進路の選択肢**を大きく広がります。

- 在学中に英検一級を取得し、岡山県の教職採用試験に合格し高校の英語教員になった卒業生。他に京都・愛媛・香川・山口の高校教員、私立学校の教員も多数です。
- 英語力を武器に大手外資系ホテルに就職した卒業生。京都で働いています。
- 培った論理的思考力を武器にして国内大手自動車メーカーに就職した卒業生。埼玉で働いています。
- 文法理論を学び、大学院に進学、今では外国語大学で英語と言語学を教え、研究活動も積極的にしている卒業生。大阪で働いています。

未来へ繋げる

人生100年時代と言われる現在、20代前半で社会に出てから80歳近くまで働くことも珍しくなくなりました。若い皆さんが年齢を重ねる頃には、その傾向はさらに顕著になるでしょう。その長い時間の中で、社会や技術は大きく変化し続けます。未来社会において、英語力は確かに重要な武器です。しかし、英語を「使える」だけでは十分とは言えません。AIが発達し、情報の収集や整理が格段に容易になった今、本当に求められるのは、**自ら問いを立て、仮説を構築し、論理的に検討し、よりよい説明を探る力**です。変化の激しい時代において、長く学び続け、働き続けるためには、言語運用能力に加えて、深く考える力が不可欠です。本領域では、英語力を基礎としながら、その先にある「**思考する力**」を徹底して鍛えます。授業を通して「なぜ？」を探求する、それは、どの時代にも通用する、未来へとつながる知的基礎力です。

私たちは、その力を本気で育てます。

英語を武器に

思考力を土台に

未来へつながる4年間